

# 令和5年度園評価に関する報告書

## 1. 園の目標

雑草のようにたくましい子、思いやりのある優しい子、ルールを守れる子に育てる

- 1 基本的な生活習慣の自立に向けて”やりたい”という気持ちを大切にしながら、自立心を育てる。
- 2 生活や遊びの中で、豊かな言葉のある環境に留意し、正しい言葉を身につけ表現力の基礎を培い、情緒の安定を図る。
- 3 家庭的な雰囲気の中で、子どもが子どもの中で育ちあう環境の下、子ども同士が自由に遊ぶことにより育つ人を思う優しさを育む。
- 4 友だちと楽しく生活する中で良いこと・悪いこと・きまりの大切さに気づき守ろうとし、人と関わる力を育む。
- 5 遊びや生活の中で、子どもの驚きや不思議に思うことを大切に受け止め、探究心・思考力を育み最後までがんばる粘り強さ「生きる力」「人を思う優しさ」を育む。

## 2. 達成に向けた具体的な取り組みの計画

1. 子どもたちが園のいろいろな活動に意欲的に進んで活動できるよう、家庭と連携し生活リズムを整える。
2. 遊びや生活の中で気づいたことやできるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする思考力、判断力、表現力の基礎を育む。
3. 「面白そう」「やってみたいなあ〜」「それ大好き！」という子どもの興味・関心・意欲を尊重して引き出し、友だちと一体感を感じることを楽しむ活動を行う。また、子どもたちにとってすべての活動が心地よく主体的に打ち込める環境作りをしていく。
4. 様々な年間行事、異年齢保育、小中学校児童との交流、食育活動、地域の行事交流等を通して異年齢の友だち、先生、地域の方たちとの関わりや触れ合う中で優しさ、思いやり、約束・ルール、マナーの守れる協調性、社会性を育てる。
5. グループ活動、また専門講師による指導を通して自分の好きなこと、やってみたいことに主体性をもって取り組み子どもたちの達成感や自己肯定感を高める。

## 3. 評価と課題

1. 基本的な身のまわりの生活習慣(食事・排泄・衣服の着脱・片付けなど)が日々の繰り返しの中から、身につけていくことを願い、子どもたちが取り組みやすい環境を整えると共に子どもたちのやりたい気持ちや一人ひとりのペースを大切に取組んできました。その結果、自分自身で生活習慣を身につけようとする力を身につけることができました。そしてさらに継続するためにも、家庭との連携を密に、子どもたちと一緒に見守り、子どもの成長を共有することができました。乳幼児共に、園での様子を連絡帳だけでなく、口頭で伝えたり個人懇談をするなど丁寧に伝える様にした。
2. 季節に応じて自然にふれる機会をつくった。秋には落ち葉ひろい、冬には氷づくりなどを体験した後に、プリント活動を通じて日常の中で言葉に親しむ機会につなげた。又、身近にあるものなどを使っての製作などを通して自分の作ってみたい物を表現する楽しさや達成感を感じる事ができた。職員との関わりや絵本の読み聞かせの中で子どもの些細なつぶやきにも耳を傾け拾っていくと子どもたちも友だちの話より聴こうとする姿が見られた。
3. 体を動かすことが大好きな子ども達は、友だちと一緒に全身で表現する事を楽しむことができた。その子の今の思いに寄り添い、できた事を褒め、励ましなが、一人ひとりの発達を尊重して関わる事また、子どもの人づくりの基礎に成す幼児期に本物と出会ったり、美しい音や動きの楽しさに気付いたり、手触りを楽しむ等の体験を多く積んで、心豊かに成長できる様に友だち同志の関わりを大切に遊びを深める様にした。
4. 幼児クラスでは、遊びを通じてルールを守らなければ楽しく遊べないなどルールの大切さを体験する事ができた。みんなで一緒に自分たちで気づける機会を多くもったことで自分たちで作りあげていくことができた。乳児クラスでは、集団あそびなども楽しんでいるが、グループ活動、発表会、運動会などを通じて、異年齢児との関わりを深く多く持ち一緒に遊んだり、見たり聞いたりして子どもが子ども同士で遊んでいる中で自分もやってみたいという気持ちになった。言葉だけでなく目でみた理解へと繋げていけるように工夫した。今年度は少しずつ地域との関わりをもてるようになってきた。
5. 今年度もレッスンを通じて学んだ事をクラス活動で取り入れ、応用することで一回やったことは自信をもって取組んでみようとする姿勢が見られた。乳児クラスでは様々な活動や生活の中で興味のある事をしていて楽しい事、悲しいこと、嬉しいことの感情をだして、それを受け止めて思いを十分に満たす事ができた。新しい遊びが楽しい子ども、同じ事の繰り返しが楽しい子どもなど様々であるので、少人数での取組みも大切にしていきたいと思う。今後も子ども達が年齢の枠をこえてお互いに学びを得て成長できるよう子どもたちの気づきや発見を大切にしていきたい。また職員間で情報の連携を図り、チーム力をさらに高めていきたい。